

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 6年7月19日

学校法人和田実学園 目白幼稚園

1 本園の保育目標等

【保育理念】

和田実の保育理念である「遊び」を通し、子どもの個性や能力を引き出す「誘導」による保育を行う。

【保育目標】

「自主性」「社会性」「創造性」を養い、「健康な体」と「情緒豊かな子ども」を育てる。

2 年間の重点目標・計画

- ① 幼稚園に求められる社会的役割を理解し、それに応えられるよう教員間の学びと共通の理解を図る。
- ② 導入されたICT機材により写真・動画の表示、ペンや指でのお絵かきの表示・保存・印刷などの機能を有効に活用して園児たちの想像力、表現力、発表力の向上を図る。
- ③ 安定した園運営ができるよう広報活動に努める。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目		達成度合	取り組み状況
1	本園の保育理念や方針を理解している。	B	遊びの中から学ぶ、という教育理念を大事にした保育実践をしている。教育理念について未消化な部分もあり試行錯誤しながら保育を行っている。
2	教育課程・目標を理解し、子どもの実態に即した計画を作成している。	B	子どもの発達に応じた計画、子どもの主体性を大事にし、好奇心を引き出せるような保育計画を作成している。
3	保育実践の振り返りや保育者間で話し合ったことを活かして保育している。	A	保育者間で情報を共有することを徹底している。話し合いを重ねながら保育を振り返り、改善に努めている。
4	子ども理解について、職員間で話し合い共通理解をしている。	A	クラスで起こったことは保育者間で共有し、子どもにとって最もよい方法を考える。共有すべきことはボードに記入し可視化する。話し合いを通した学びを大切にしている
5	子どもの活動がより豊かに展開できるよう環境構成をしている。	A	自発的な遊びが発展するよう、経験が偏らないようバランスを考え工夫しながら環境構成をする。
6	保育内容5領域を理解しバランスのとれた保育実践をしている。	B	子どもの主体性を尊重することにより、五領域をバランスよく取り入れた活動とは言えない部分も見られる。五領域に対する理解不足もあり、幼稚園教育要領について学び直す必要がある。
7	子どもが大人になったとき困らないよう「生きる力」の基礎を培う保育実践をしている。	A	好きなことを満足するまでできる時間を大事にする。手を出し過ぎず見守りながら、困ったときは「たすけて」と言える子どもを育てる。
8	子どもの思いを受け入れ、人権に配慮した関りをしている。	A	子どもの気持ちに寄り添い丁寧な関りを大切にする。自分の気持ち、他者の気持ち、考えなどに気付くように関わる。自身が周囲に合わせようとしている。
9	丁寧な関りや配慮が必要な子どもに対し、その子にあった支援をしている。	A	一人一人と丁寧な関りをしている。子どもをよく見る、感じ取る、理解することを大事にする。関りが難しいと感じるのはその子に合わない援助だと痛感。

10	地域との関りや社会資源を活用し、幅広い保育実践ができるようにしている。	B	希望する保護者には専門機関と情報共有している。公園や文化施設の活用など取り入れたい。社会資源の活用まで至っていない。
11	保護者や子育て世帯に対して育児支援や相談などに取り組んでいる。	A	日々の様子を伝え、子育ての悩み、困りごとなど聞いている。子どもの様子を丁寧に伝え、相談に乗っている。
12	保育施設の特性を活かした施設開放や地域貢献に取り組んでいる。	B	園施設開放、近隣施設や地域とコミュニケーションを取っている。フェイスブック、掲示板などの媒体により情報発信している。教育実習生を受け入れている。
13	社会のニーズに合わせた取り組みや保育実践をしている。	B	保護者の意見に耳を傾け保育に取り入れている。預かり保育、一時保育などのニーズに応えているが十分とは言えない。
14	保育の質を向上するための取り組みをしている。	B	園内での学びを補うため、園外の研修に参加している。話し合いの時間をもち情報共有し次の保育に活かしている。
15	職務上必要な、公的機関が開催する研修・講習会に参加し保育活動に活かしている。	C	研修で得た学びが実践に繋がらない。積極的に参加する必要がある。
16	園外で行われる研修に積極的に参加し、保育の質向上や改善に取り組んでいる。	B	身近な問題について話し合う機会はあるが積極的な取り組みには至っていない。園内研修をするゆとりがない。
17	園内における身近な問題について、園内研修として継続的に取り組んでいる。	B	外部講師による研修(1回実施)より、みんなで話し合いをする。積極的に意見交換するが、継続的な取り組みにはなっていない。
18	自分の趣味や関心事を深めるための自己研鑽に取り組んでいる。	B	一般教養に繋がる学びを深めたいと準備中。自分の趣味を保育に活かしている保育者もいる。休日を有効に活用し、一人の時間を大事にしている。
19	現在の保育のあり方について気になる点がある。	B	預かり保育の体制が十分とは言えない。子ども、保育者が共に生活する場であることを大事にした実践。丁寧な保育を心掛けている。
20	保育実践においてICTの活用が求められているが、日頃の保育の中で活用している。	B	メールによる情報配信、写真配信をしている。園だよりやお知らせなどのICT化、ペーパーレスを目標とする。
21	昨年度、電子黒板を導入したことにより、園児の経験は広がっている。	B	できるだけ触れる機会を持ち操作を習得している。子どもと共に活用することで保育活動に広がりができた。同僚に頼っているが、自らも積極的に活用したいという意見もあり、期待できる。
22	電子黒板の操作方法に慣れ、保育への活用が期待される。	B	操作方法が分からないときは、電話で操作方法を質問する、来園していただき操作方法学ぶ。視聴覚教材の視聴、動植物の育て方を調べる、見つけたものを拡大して見る、行事について調べたり動画を見るなどに活用している。
23	その他	A	子どもが主体的に遊びを展開できる環境や活動内容を充実させる。情報化社会に生きる子どもの心を受けとめ、小さなことを大切にし喜びを共有する保育を目指す。

4 総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>各評価項目について真摯に取り組んでおり、特に教員間の話し合いの機会を多く持ち情報の共有に努めている。昨年度後半からICTを導入し活用しており、子どもたちの表現力、発表力は明らかに向上している一方、教員たちの操作能力のさらなる向上が期待される。</p> <p>昨年度に比し評価を下げた項目3点、上げた項目3点となったが、全般として自己を厳しめに評価している。</p>

(3. 4の評価記号…A:十分達成されている B:概ね達成されている C:達成されておらず成果不十分)

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
導入したICT機材の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットとの接続により映像取り入れ、教育放送の有効活用 ・教員全員が電子黒板、書画カメラの操作法をマスターする ・園だより、お知らせなどのICT化
保護者や子育て世帯との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育・一時保育の受け入れなど保護者支援の在り方を検討する。 ・未就園児保護者に本園の保育に触れる機会を多く持つ。
地域との関わりの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた幼稚園として施設開放日を設けホームページ等で周知する。 ・年間を通して見学者を受け入れるほか、実習生を通し本園の保育理念の周知を図る。
研修・講習会への参加と反映	<ul style="list-style-type: none"> ・政府刊行物や送付資料等を共有し、園内研修を定期的実施する。 ・園外研修を通し、社会の動向に関心を持つ。 ・学会団体加入を検討し、和田実の教育理念を広く社会に発信していく。

6 学校関係者評価委員会の評価

和田実の教育理念を継承し、子どもの主体性を尊重した遊びによる保育実践をしていることは、毎日子どもたちの元気な声があることを表している。さらに教育内容の充実・方法の改善を目的としてICTを導入し、園児たちの想像力、表現力、発表力の更なる向上を図っていることは評価できる。機材の有効活用により、子どもたちのより良い発達に努力してほしい。

その上で、創立当時の保育理念や方法をそのまま受け継ぐのではなく、子どもの実態、時代が求める保育の基本理念等を理解し、全教職員が社会の変動に関心を持ち、各種研修に積極的に参加する等により新たな保育の在り方を模索する必要もある。

ICT機材の導入による目白幼稚園の教育水準の向上について(報告)

1 報告の趣旨

東京都の補助を受け目白幼稚園にICT機材(電子黒板、書画カメラ)を導入したことにより、園児たちに対する教育の手段・内容及び要領に選択肢の幅を広げ、導入の効果が見られたことを報告する。

2 導入の目的

既存の遊具・教材の活用と並行して写真・動画の表示、ペンや指でのお絵かきの表示・保存・印刷などを活用して園児たちの想像力、表現力、発表力の更なる向上を図る。

3 導入の経緯

(1)都の担当部署：東京都生活文化スポーツ局私学部私学振興課

(2)補助の名称：私立幼稚園教育水準向上支援事業補助金

(3)導入するICT機材：「電子黒板・書画カメラ」

(写真や動画の撮影・表示、拡大・縮小、ペンや指での書き込み、保存が可能)

(4)導入時期：令和5年12月13日(水)

4 活用状況

(1)導入後機材の利用方法について、教諭たちが慣熟するため納入業者担当により2回取り扱い説明受けた。その後、必要の都度電話により説明受けを実施している。

(2)当初は教諭たちの機材取り扱いが不慣れのため、雨天で外遊びができない時を中心に、過去に撮り置きの写真を表示する程度であった。

(3)取り扱いに慣れるに従い、ネットに接続した動画の表示、お絵かき、園庭にある植物の葉の拡大表示などを実施している。

(4)なお導入に先立ち園児保護者に「お知らせ」を配布したが、登降園時に機材に触れる機会は持てなかったものの、保護者が企画した行事の中で機材が使用されている。今後園生活発信のツールとして保護者懇談会等での活用を考えている。

5 成果

園児たちが機材に触れるのは比較的短期間ではあったが、以下のような成果が見られる。

- 想像力：花の拡大画像を見て花卉・茎、葉脈等から植物の状態を想像している。
- 表現力：お絵描きで指やペンの太さ、色を自由に選び、自在に表現している。
- 発表力：絵本や動画等鑑賞後に、人物の背景や表情など自分なりに気づいたことを言葉で表現し発表している。

6 今後の対応

使用する教諭たちが機材の使用法に完熟し有効活用に努めるとともに、保育への有効性を保護者等に知らしめ、目白幼稚園の広報に努める。